

布表面に起伏模様をもつ婦人服地の風合いの客観的評価

○井上尚子* 丹羽雅子**

(* 梶山女学園大 ** 奈良女大)

目的: これまで比較的表面上に起伏の少ないフラットな婦人服地の表面特性の計測によって、その品質や風合いの客観的評価法が確立されてきている。しかし、婦人服地には布表面に起伏模様をもつものが多いことから、これらの布の表面特性の新しい計測方法を適用して布の風合いの客観的評価について検討する。

方法: 新しく開発された接触子¹⁾を使用し、布の表面特性を計測した。1996年～1998年の婦人服地を国内外から広範に収集し、布の表面上に起伏をもつ66種を試料として選んだ。それらの布の力学特性を高感度条件で測定し、シルエットを判別²⁾して、各シルエットグループごとにテキスタイルデザイナー、熟練技術者、流通関係者による基本風合いHand Value(HV)評価値1～10)、総合風合いTotal Hand Value(THV)評価値1～5)の官能評価を実施し、新しい接触子による計測値を標準計測値に変換して従来の風合い変換式を用いて風合い値を算出した。この計算値と官能評価値を比較して風合いの客観評価の精度を検討した。

結果: シルエットの判別率的中率は起伏のない布地よりはやや低いが、80.7%の良好な判別の一致が得られた。各シルエットタイプの力学特性はいずれも、表面特性MIU、MMD、SMD、布の厚さTが大きいこと、ドレープタイプはせん断ヒステリシス2HG、2HG5が小さく、張り、テーラードタイプは曲げ特性B、2HBが大きい傾向がみられた。官能評価はHVにおいていずれのシルエットも評価者間に高い相関が認められ、テーラードタイプでの風合いHV変換式の適合は高く、客観評価の妥当性を確認した。

- 文献 1) S.Kawabata, Y.Yamashita, T.Umeda and K.Nakano, "Large-size Contactor for KESF Friction Measurement for the Fabrics Having Rugged Surface", *Proceeding of 28th Textile Research Symposium at Mt.Fuji*, (1999)
- 2) M.Niwa, M.Nakanishi, M.Ayada and S.Kawabata, "Optimum Silhouette Design for Ladies' Garments Based on the Mechanical Properties of a Fabric", *Textile Res. J.*, **69**(8)578-588(1998)